

ろうとしています。石に藻が張り、魚が生息すると自然生態系がもどり、水が浄化されてゆきます。

### 子どもたちが憧れる大人文化を

伴 かつての大阪は、大きな観光都市でもありました。そこで観光客は、大阪で見聞きしたことを全国に伝播させたんです。例えば大阪城は、関東大震災を教訓にして、昭和6年に世界でいち早く鉄骨鉄筋コンクリート構造で建設されました。当時最先端のハイテクビルだったんですね。これを見た外国人は、日本の建築技術のすごさを土産話にして世界に伝播させたでしょう。ちなみにアメリカでは、同じ年に当時世界一高いエンパイアステートビルができていますが、これは大阪城とは構造が違います。そんな土産話ならいくらでもあります。千利休が八軒家浜から船に乗ったとき、侍が腰の刀を外して町人と同じように頭を下げるようにして船に乗り込む姿を見て、茶室の「にじり口」を思いついたそうです。茶の湯のルーツは船にあるんです。

堀井 そんな話を聞きながら、いつでも川の上から大阪のまちを楽しめるようにしたいですね。アメリカのサンアントニオには乗合いの観光船があって、粋な姿の船長がまちを案内してくれます。大阪でもそうした観光船にいつでも乗れるようにしたいですね。

佐藤 船といえば、関西で最初にボートレースを行ったのは堂島川です。明治20年代のことです。今でもこの大川で大阪市立大学のボート部が練習しています。今年5月、琵琶湖で行われた第62回朝日レガッタでは、市大が男子舵手付フォアの部で優勝しました。地元の川で鍛えられた、地元の大学が活躍しています。

二見 英国北部の都市のケンブリッジで、ドレスアップした男女がケム川の両岸で

レガッタを観戦しているのを見て、素敵だなと思いました。ワイン片手に、船の上で夕涼みっていうのもお洒落ですね。

伴 そんな船遊びが盛んになると、子どもたちも大人がカッコ良くみえて、憧れるでしょう。

### 都心にこそ必要な緑のかたまり

堀井 大阪21世紀協会は、「水の都大阪を磨こう」と、この7～8年さまざまな提言をし、推進してきました。伏流水が大きな流れになって、今やっと表面に出てきた感じです。今後は具体的な運動に継続発展して欲しいと思っています。ところで、大阪・関西の将来を考えたとき、次に何を重点に取り組むべきかという問題もあります。中之

島はもとより、ベイエリアや梅田の北ヤードなどをどうしていくのか。とくに北ヤードは第1期先行開発以降のプランは、まだ手付かずです。

佐藤 大阪・関西の将来を考えると、関西国際空港の存在がとても重要だと思います。大阪には京都や奈良といった集客力の高い後背地があるし、関空から入った人や物は、大阪経由で全国に散ら



ばっていきます。かつて大阪は「天下の台所」と呼ばれ、人や物の集積地として発展しました。その歴史から学べば、関空を成田空港とならぶ日本のハブ空港として位置づけ、人や物がどんどん入ってくる仕掛けづくりが必要だと思います。大阪は、そのための結節点だという認識で、中之島や北ヤード、ベイエリアの将来的活用



大川・桜宮橋(通称:銀橋)

を考えなくてはならないと思います。

堀井 関空と北ヤードは直結しますからね。物流面では、船便と航空便を組み合わせたシップ&エアーで、関空とベイエリアの一体的活用も考えられます。

二見 大阪が国際都市であるためには何が必要かという話になったとき、海外から来る有識者のほとんどは、「町の真ん中に広大な公園を持つことが必要」と口を揃えます。中之島公園や靄公園は、ロンドンのハイパークやニューヨークのセントラルパークには遠く及びません。私は、大阪都心部にまとまった緑を確保できる最後の砦が北ヤードだと思います。パリのリュクサンブール公園が北ヤードと同じくらいの広さです。北ヤードの建築群に屋上庭園や壁面緑化を施すなどして立体的な緑化

### 伴 一郎(ばん いちろう)氏

1986年、PR会社・伴ピーアール株式会社設立。90年の花博を機に大阪のPR活動に力を入れ、94年オーストラリアで30万人規模の天神祭を成功に導く。「くだおれ人形」や「かに道楽」などの看板キーホルダーがヒット。03年から舟運事業部を設立。